



2022年度 第3四半期決算報告

2023年2月6日

日清食品ホールディングス株式会社

(証券コード：2897)

決算説明会開催日：2023年2月6日

本日のポイント

Point 1 : 3Q累計業績

- 米国を中心に海外事業が引き続き好調。原材料・包材・エネルギーコスト増加を主因に苦戦する国内事業をカバーし、前期比2桁%の増収・増益
- 売上収益・既存事業コア営業利益は過去最高を更新

Point 2 : 通期業績予想を上方修正、増配

- 国内事業は引き続きコスト増の影響を受け、厳しい状況が続くが海外事業の上振れ見通しにより、売上収益・利益とも上方修正
- 期末配当は、期初予想の1株当たり65円から75円へ増配（年間140円）

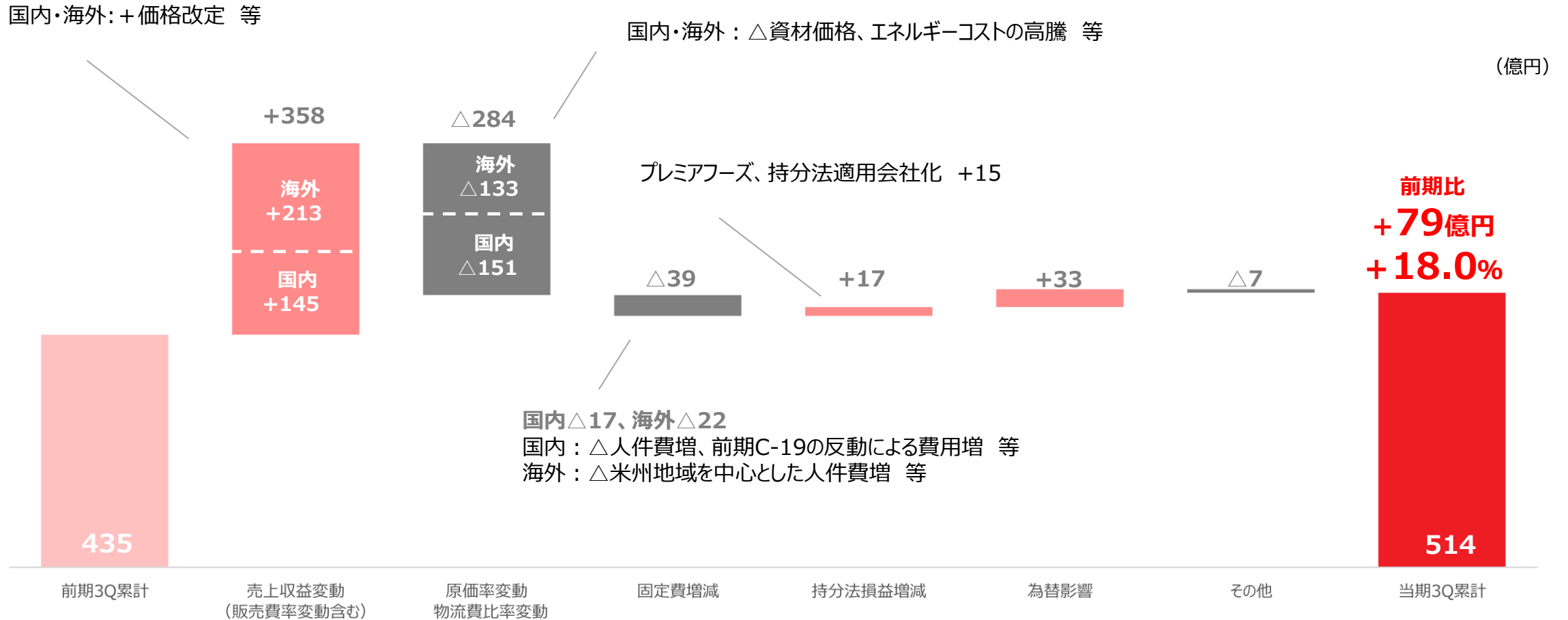
Point 3 : 価格改定

- 日清食品は、2023年6月出荷分から、メーカー希望小売価格の+10~13%の価格改定を実施。継続するコスト上昇影響を補完

2022年度 第3四半期 連結決算サマリー及び通期連結業績予想の修正

単位：億円	2022年度 第3四半期 決算開示ベース			通期修正予想（2023年2月6日発表）				
	実績	前期比		2022年度 予想	vs. 期初予想		vs. 前期	
		増減額	増減率		増減額	増減率	増減額	増減率
売上収益	5,015	+ 767	+ 18.0%	6,600	+ 650	+ 10.9%	+ 903	+ 15.8%
既存事業コア営業利益	514	+ 79	+ 18.0%	570	+ 50	+ 9.6%	+ 74	+ 15.0%
営業利益	487	+ 61	+ 14.4%	520	+ 25 ~ + 50	+ 5.1% ~ + 10.6%	+ 54	+ 11.6%
親会社の所有者に帰属する 四半期利益	349	+ 42	+ 13.6%	380	+ 50 ~ + 70	+ 15.2% ~ + 22.6%	+ 26	+ 7.3%
既存事業コア営業利益率	10.2%	△ 0.0pt		8.6%	△ 0.1pt		△ 0.1pt	
営業利益率	9.7%	△ 0.3pt		7.9%	△ 0.4pt ~ △ 0.0pt		△ 0.3pt	
親会社の所有者に帰属する 四半期利益率	7.0%	△ 0.3pt		5.8%	+ 0.2pt ~ + 0.5pt		△ 0.5pt	

既存事業コア営業利益の増減要因



* 細目は前期為替一定ベース

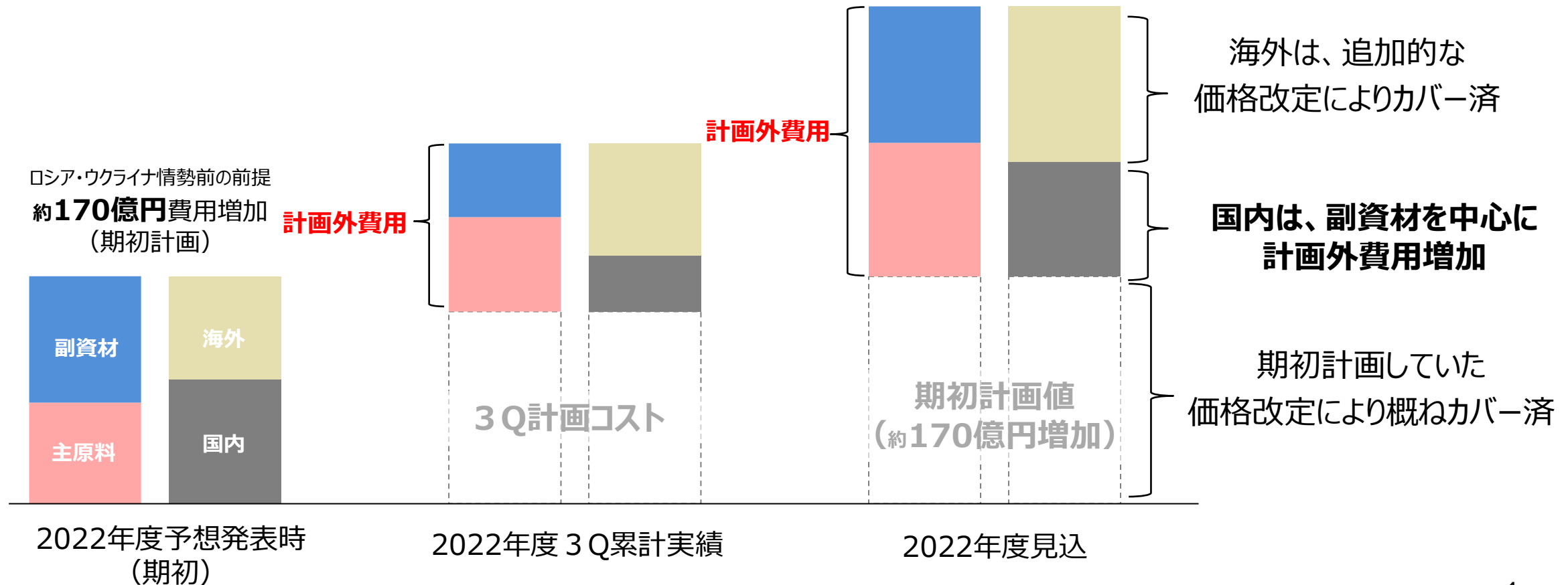
* 国内その他セグメント、その他連結調整及びグループ関連費用のコア営業利益増減は「その他」に含めて表示

資材コスト上昇影響と価格改定によるカバレッジ状況

海外事業の計画外費用の大半を占める、主原料（小麦・パーム等）増加分は追加価格改定でカバー済
国内事業は副資材（具材・包材等）を中心に計画外費用増加、今後の価格改定により損益改善を図る

資材コスト上昇による影響（前期比）イメージ

カバレッジ状況



セグメント別 売上収益実績

大幅増収となった海外事業を中心に、国内事業の底堅い需要もあり、全てのセグメントで増収

単位：億円	2022年度 第3四半期 決算開示ベース			2022年度 第3四半期 為替一定ベース		
	実績	前期比		実績	前期比	
		増減額	増減率		増減額	増減率
日清食品	1,670	+ 88	+ 5.6%	1,670	+ 88	+ 5.6%
明星食品	300	+ 18	+ 6.2%	300	+ 18	+ 6.2%
国内即席めん事業	1,970	+ 106	+ 5.7%	1,970	+ 106	+ 5.7%
低温・飲料事業	645	+ 33	+ 5.4%	645	+ 33	+ 5.4%
菓子事業	550	+ 29	+ 5.6%	550	+ 29	+ 5.6%
国内非即席めん事業	1,195	+ 62	+ 5.5%	1,195	+ 62	+ 5.5%
国内その他	34	+ 17	+ 105.6%	34	+ 17	+ 105.6%
国内事業 計	3,199	+ 186	+ 6.2%	3,199	+ 186	+ 6.2%
米州地域	1,047	+ 409	+ 64.1%	839	+ 201	+ 31.4%
中国地域	495	+ 94	+ 23.6%	420	+ 20	+ 5.0%
アジア地域	151	+ 39	+ 34.8%	131	+ 19	+ 17.4%
EMEA地域	123	+ 39	+ 45.7%	117	+ 32	+ 38.0%
海外事業 計	1,816	+ 581	+ 47.1%	1,507	+ 272	+ 22.0%
連結 計	5,015	+ 767	+ 18.0%	4,706	+ 458	+ 10.8%

* 「国内その他」には新規事業も含まれます

* 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります

セグメント別 コア営業利益実績

国内事業はコスト上昇により減益なるも、米州地域が海外事業を牽引。増益幅拡大

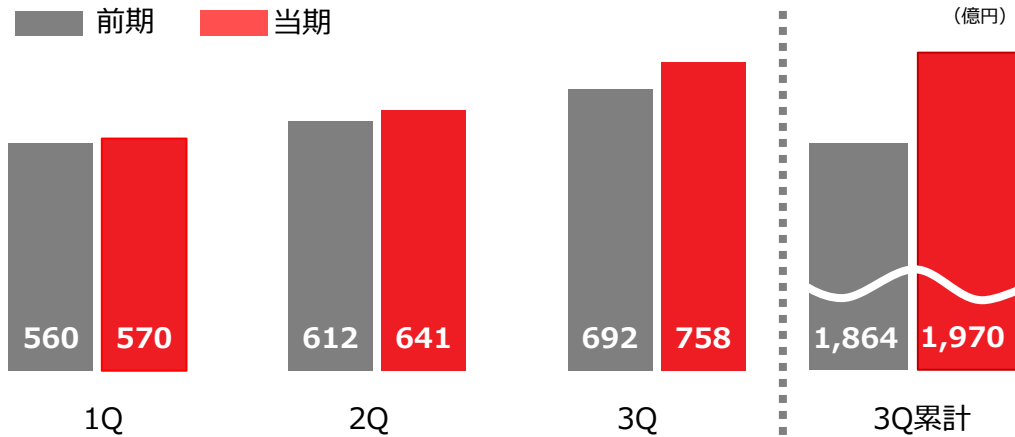
単位：億円	2022年度 第3四半期 決算開示ベース					2022年度 第3四半期 為替一定ベース		
	営業利益	その他 収支	コア営業利益	前期比		コア営業利益	前期比	
				増減額	増減率		増減額	増減率
日清食品	250	△ 0	250	△ 12	△ 4.5%	250	△ 12	△ 4.5%
明星食品	22	0	21	△ 2	△ 8.9%	21	△ 2	△ 8.9%
国内即席めん事業	271	0	271	△ 14	△ 4.9%	271	△ 14	△ 4.9%
低温・飲料事業	32	△ 2	33	△ 1	△ 3.6%	33	△ 1	△ 3.6%
菓子事業	22	△ 0	22	△ 9	△ 28.0%	22	△ 9	△ 28.0%
国内非即席めん事業	54	△ 2	55	△ 10	△ 15.0%	55	△ 10	△ 15.0%
国内その他	17	1	16	△ 0	△ 0.7%	16	△ 0	△ 0.7%
国内事業 計	342	△ 1	343	△ 24	△ 6.5%	343	△ 24	△ 6.5%
米州地域	96	△ 0	96	+ 70	+ 269.3%	77	+ 51	+ 194.8%
中国地域	59	5	54	+ 11	+ 25.0%	46	+ 3	+ 6.6%
アジア地域	32	△ 0	32	△ 1	△ 3.9%	30	△ 4	△ 12.1%
EMEA地域	34	△ 2	36	+ 29	+ 461.0%	32	+ 26	+ 407.6%
海外事業 計	220	2	218	+ 109	+ 99.7%	185	+ 75	+ 69.1%
国内・海外事業 計	562	2	561	+ 85	+ 17.9%	527	+ 52	+ 10.8%
その他連結調整	△ 1	△ 0	△ 1	△ 1	-	△ 1	△ 1	-
グループ関連費用	△ 46	-	△ 46	△ 6	-	△ 46	△ 6	-
既存事業 計	515	2	514	+ 79	+ 18.0%	480	+ 45	+ 10.4%
新規事業	△ 28	△ 0	△ 28	△ 15	-	△ 28	△ 15	-
連結 計	487	1	486	+ 63	+ 15.0%	452	+ 30	+ 7.0%

* 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります

国内即席めん事業

数量は引き続き前年比増で推移、需要は底堅くトップラインは好調に推移するも、
 原材料・包材・エネルギーコスト上昇の影響を受け、減益で着地

売上収益



日清食品(+ 6%)

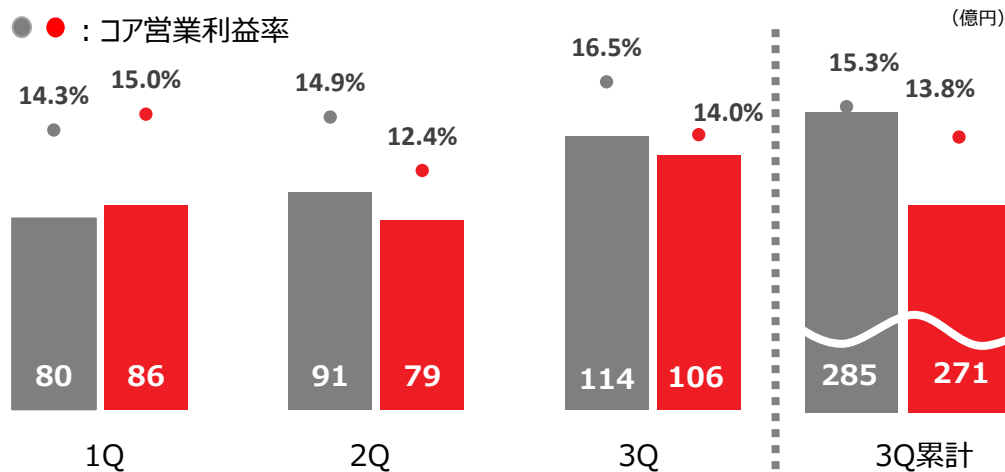
カップめん：既存定番品をはじめ、高付加価値製品も引き続き好調

袋めん：「日清これ絶対うまいやつ♪」が引き続き好調、「0秒チキンラーメン」も貢献

明星食品(+ 6%)

「濃いぜ！一平ちゃんBIG」が貢献、「至極の一杯」等バリュー商品が好調

コア営業利益



日清食品(△ 5%)

+) 売上増加による利益増

△) 資材高騰による原価率の上昇、エネルギーコスト及び物流費の増加等

明星食品(△ 9%)

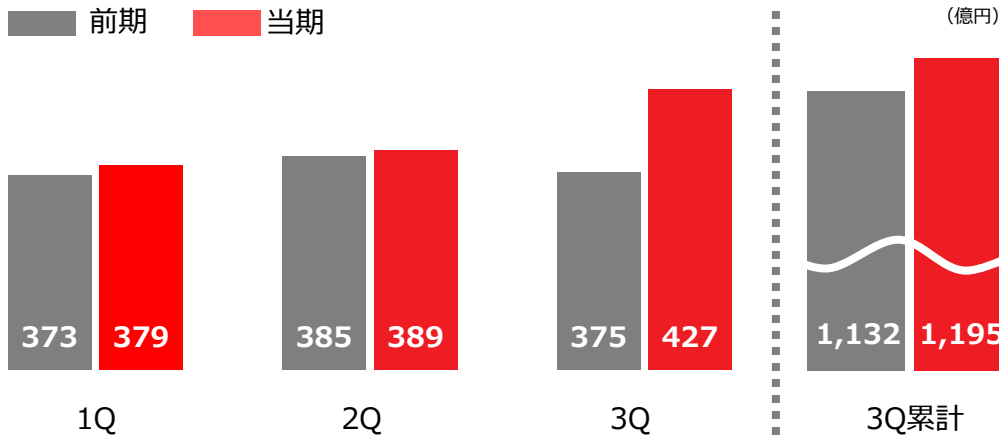
+) 売上増加による利益増

△) 資材高騰による原価率の上昇、エネルギーコストの増加等

国内非即席めん事業

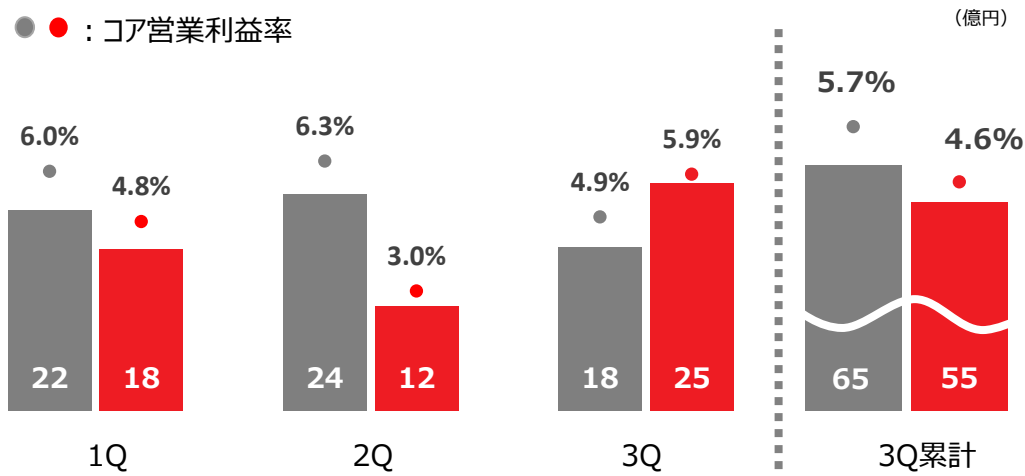
3Q(10-12月)は、「ピルクル ミラクルケア」が好調であったヨーク、定番商品が好調であった湖池屋がセグメントを下支え。冷凍事業も減益幅縮小

売上収益



- チルド** (△3%) : 市場環境の変化や価格改定に伴う販売数量減により減収
- 冷凍** (+4%) : 「日清スパ王プレミアム」、「日清本麺」、「日清ごくり。」好調
- ヨーク** (+17%) : ピルクル・十勝のむヨーグルト好調、「ピルクル ミラクルケア」がプラスオン
- シスコ** (△2%) : シリアルが苦戦し減収
- ぼんち** (+10%) : 主力商品が好調に推移
- 湖池屋** (+9%) : 「ポテトチップス」シリーズやリニューアルをした「スコーン」が好調

コア営業利益

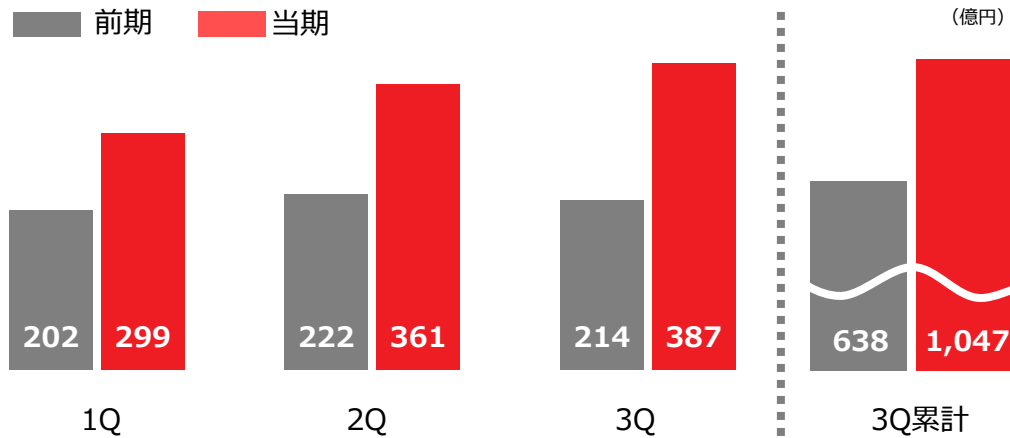


- チルド** 減益 : 減収に加えて資材高騰等による原価率の上昇により減益
- 冷凍** 減益 : 増収も原価率の上昇により減益
- ヨーク** 増益 : 資材高騰も増収により増益
- シスコ** 減益 : 売上減少や資材高騰により減益
- ぼんち** 減益 : 資材高騰により減益
- 湖池屋** 減益 : 国内は好調も海外での資材高騰の影響により減益

米州地域

米国の価格改定効果が奏功。数量も好調に推移し、大幅な増収増益で着地

売上収益



米国 : 高い需要が継続し、価格改定後も数量を落とすことなく前年をキープ
プレミアム商品を中心に好調に推移し、増収(為替影響 +107億円)

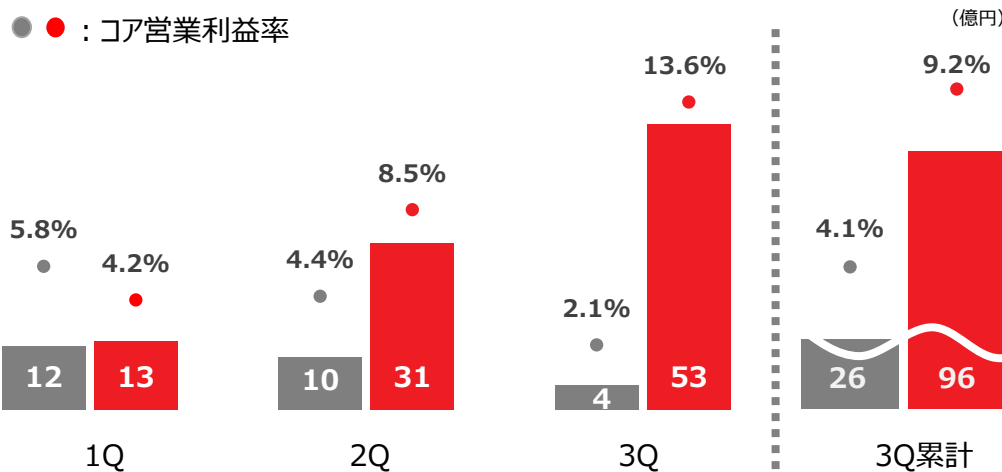
メキシコ : 価格改定効果や、数量増により増収(為替影響 +20億円)

ブラジル : 価格改定効果により増収(為替影響 +81億円)

10-12月 前期比 3Q累計 前期比

	売上収益 (前期為替一定ベース)	数量	売上収益 (前期為替一定ベース)	数量
米国	+ 59%	+ 1桁前半%	+ 38%	+ 1桁前半%
メキシコ	+ 34%	+ 1桁前半%	+ 36%	+ 2桁前半%
ブラジル	+ 18%	△1桁前半%	+ 20%	△1桁前半%

コア営業利益



米国 : 2Q黒字転換後、大幅増益

価格改定により資材高騰を吸収(為替影響 +8億円)

メキシコ : 増益

価格改定により資材高騰を吸収し増益(為替影響 +2億円)

ブラジル : 増益

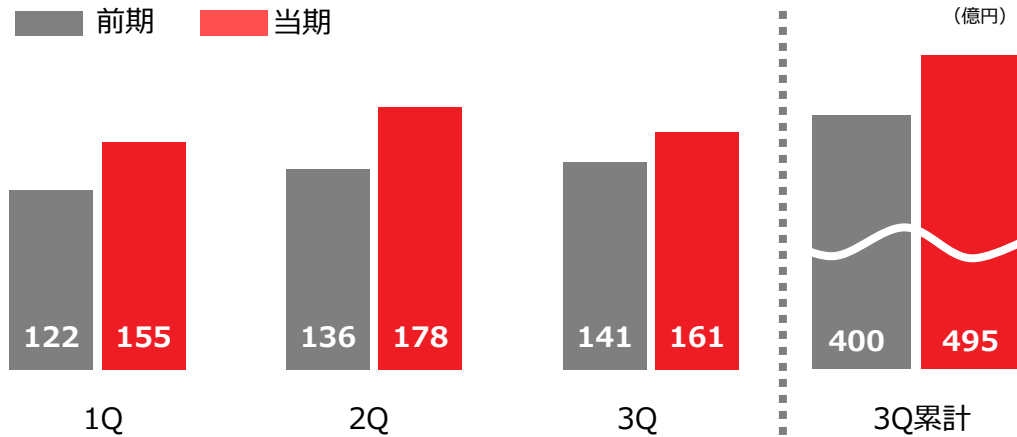
価格改定により資材高騰を吸収し増益(為替影響 +9億円)

* 数量は管理ベースで記載しています
* 米国の売上収益の伸びは、米国日清、明星USAの合計です

中国地域

資材高騰の影響を受けながらも、価格改定の浸透により増益を維持

売上収益



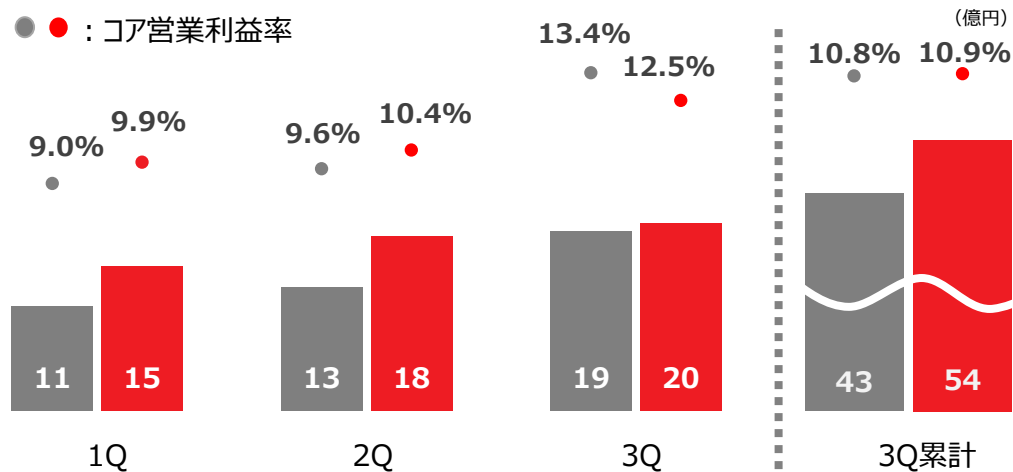
香港 : 袋めんを中心とした数量増に加えて価格改定も影響し増収
(為替影響 +34億円)

大陸 : 厳しい市場環境でも価格改定により増収
(為替影響 +41億円)

3Q累計 前期比

	売上収益 (前期為替一定ベース)	数量
香港	+6%	+1桁前半%
大陸	+5%	+1桁前半%

コア営業利益



香港 : 増益

資材高騰も価格改定と数量増により増益
(為替影響 +3億円)

大陸 : 増益

資材高騰も価格改定により増益
(為替影響 +5億円)

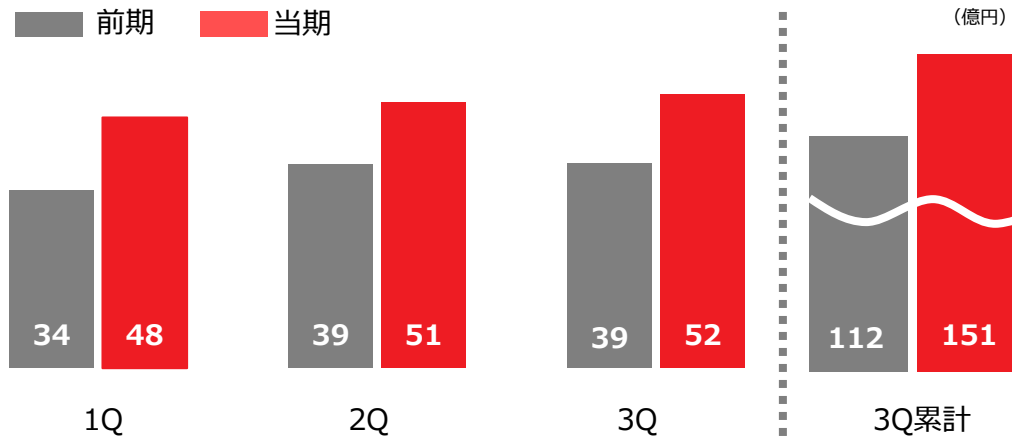
* 数量は管理ベースで記載しています

** 中国地域の実績は、日清食品 HD の連結方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります

アジア地域

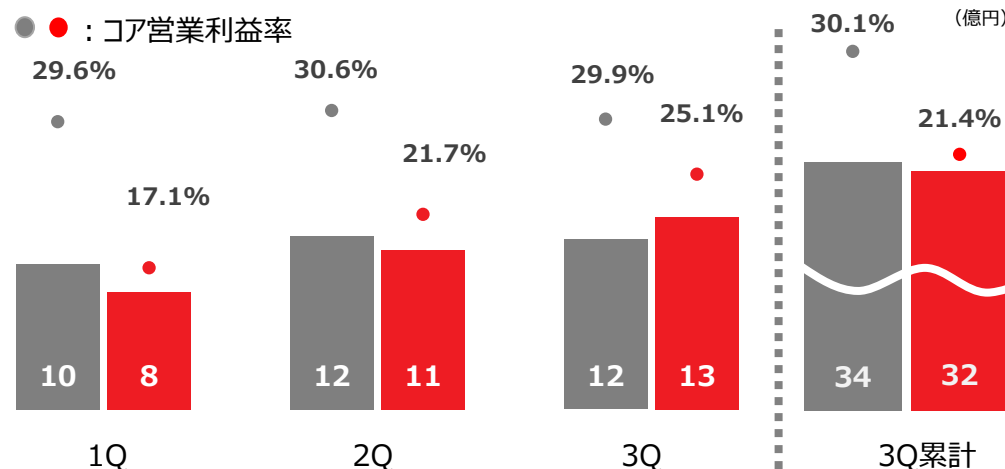
3Q累計ではコスト上昇影響を受け減益となる一方、3Q(10-12月)は各国の価格改定効果により増益

売上収益



- 売上額が多い順
- インド : 増収 (為替影響 +6億円)
 - タイ : 増収 (為替影響 +5億円)
 - シンガポール : 増収 (為替影響 +5億円)
 - インドネシア : 増収 (為替影響 +3億円)
 - ベトナム : 増収 (為替影響 +1億円)

コア営業利益 (持分法損益含む)

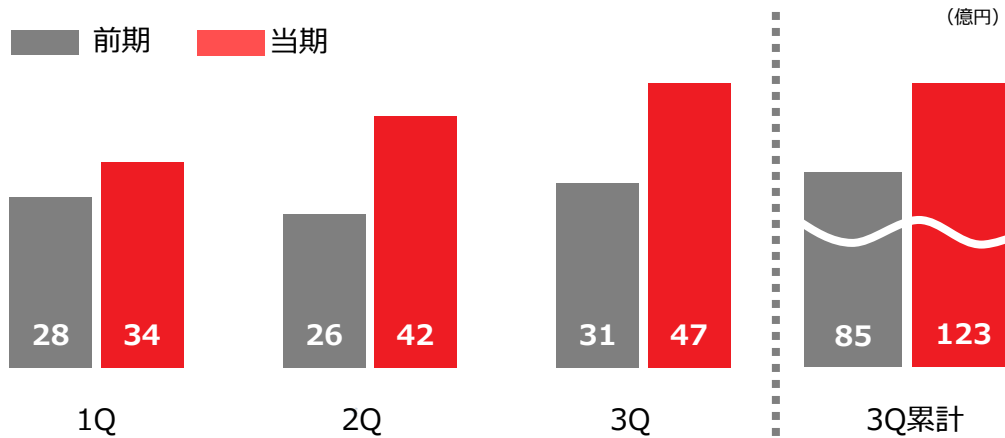


- 利益額が多い順 (持分法適用会社除く)
- タイ : 減益 販売数量増も資材高騰により減益 (為替影響 +0.7億円)
 - シンガポール : 増益 (為替影響 +0.7億円)
 - インドネシア : 増益 (為替影響 +0.3億円)
 - ベトナム : 赤字幅縮小 (為替影響 Δ 0.1億円)
 - インド : 赤字幅縮小 (為替影響 Δ 0.4億円)
- 持分法による投資損益
- タイプレ : 14億円 (前期比: Δ 4億円 (為替影響 +1億円))
 - NURC : 9億円 (前期比: +1億円 (為替影響 +0.7億円))

EMEA地域

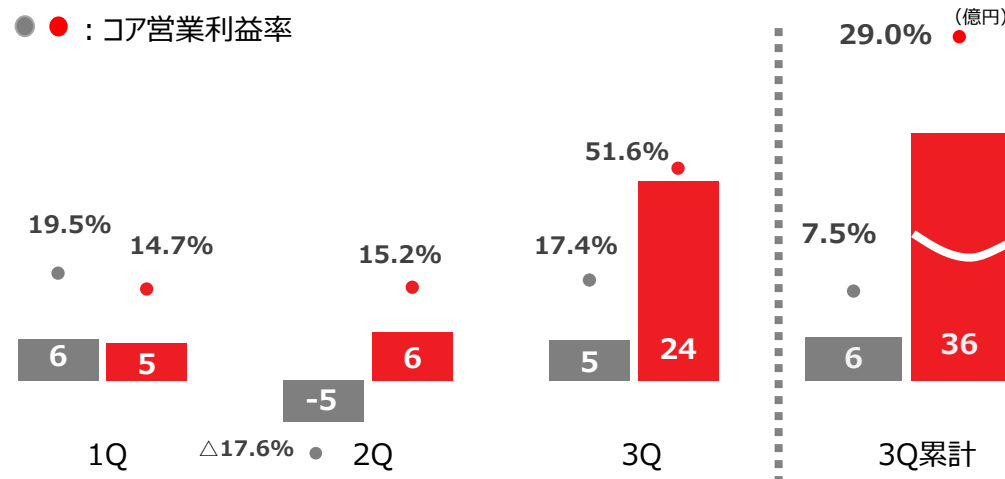
成長著しい即席めん市場において、売上収益は3Q累計で前期比約1.5倍まで成長
 プレミアフーズが加わり、持分法適用会社は3Q(10-12月)で20億円の利益貢献

売上収益



- 「CUP NOODLES」、「Soba」、「Demae Ramen」ブランドが引き続き好調に推移
- イギリス、ドイツ、フランスを中心に増収 (為替影響 +7億円)

コア営業利益 (持分法損益含む)



欧州 : 増益

生産効率の向上、主力商品の販売増加、価格改定等により
 資材高騰をカバーし増益(為替影響 +1億円)

持分法による投資損益

マルベン : 10億円 (前期比: +9億円 (為替影響 +2億円))
 プレミアフーズ : 15億円 (2022年度2Qより持分法損益を計上)

Appendix

(参考) 米州地域および海外地域全体の売上収益・数量 前期比

4-6月

7-9月

10-12月

3Q累計
(4-12月)

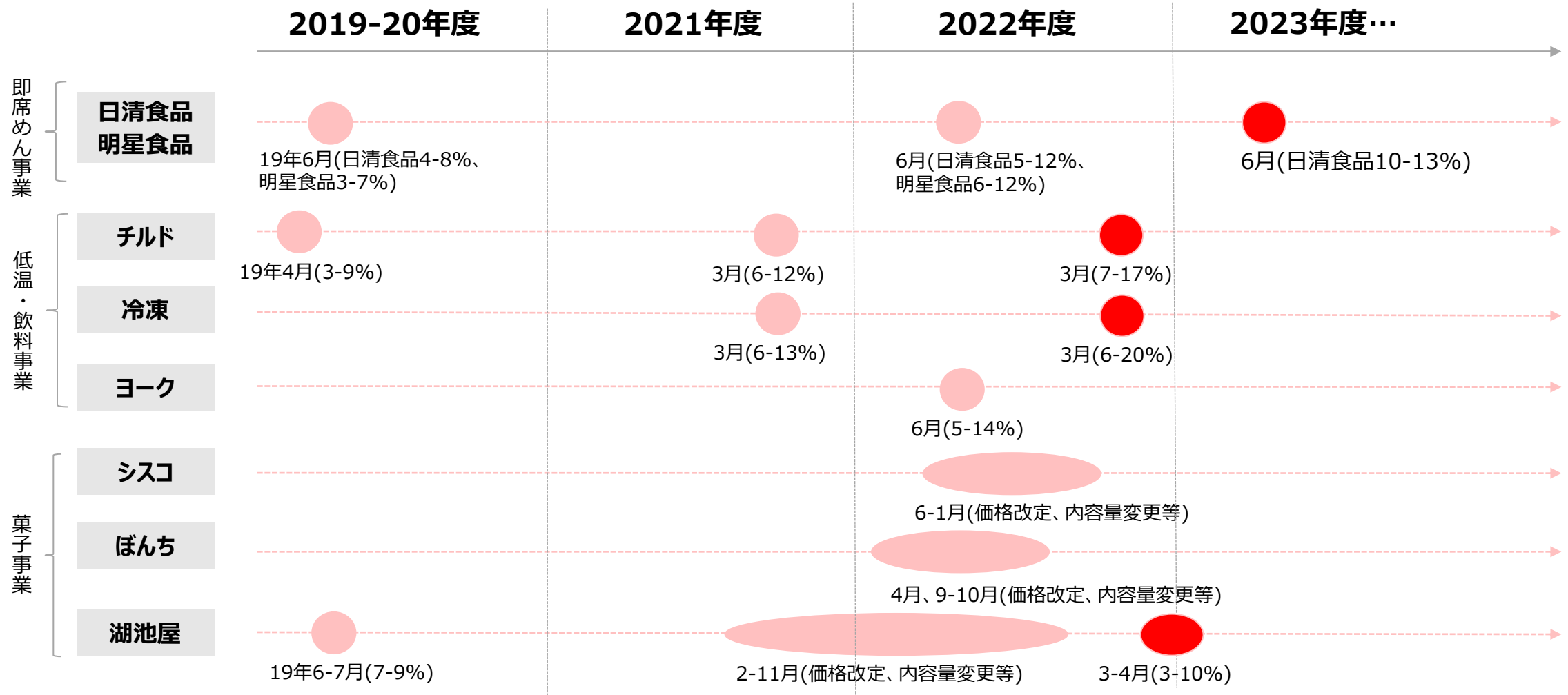
	売上収益 前期為替一定ベース	数量	売上収益 前期為替一定ベース	数量	売上収益 前期為替一定ベース	数量	売上収益 前期為替一定ベース	数量
米国	+18%	+1桁前半%	+37%	+1桁前半%	+59%	+1桁前半%	+38%	+1桁前半%
メキシコ	+45%	+2桁前半%	+29%	+1桁後半%	+34%	+1桁前半%	+36%	+2桁前半%
ブラジル	+21%	△1桁前半%	+22%	△1桁前半%	+18%	△1桁前半%	+20%	△1桁前半%
海外全体	+17%	+1桁前半%	+23%	+1桁前半%	+25%	+1桁前半%	+22%	+1桁前半%

* 数量は管理ベースで記載しています

* 米国の売上収益の伸びは、米国日清、明星USAの合計です

主な価格改定推移（国内）

国内即席めん事業において23年6月に価格改定を実施

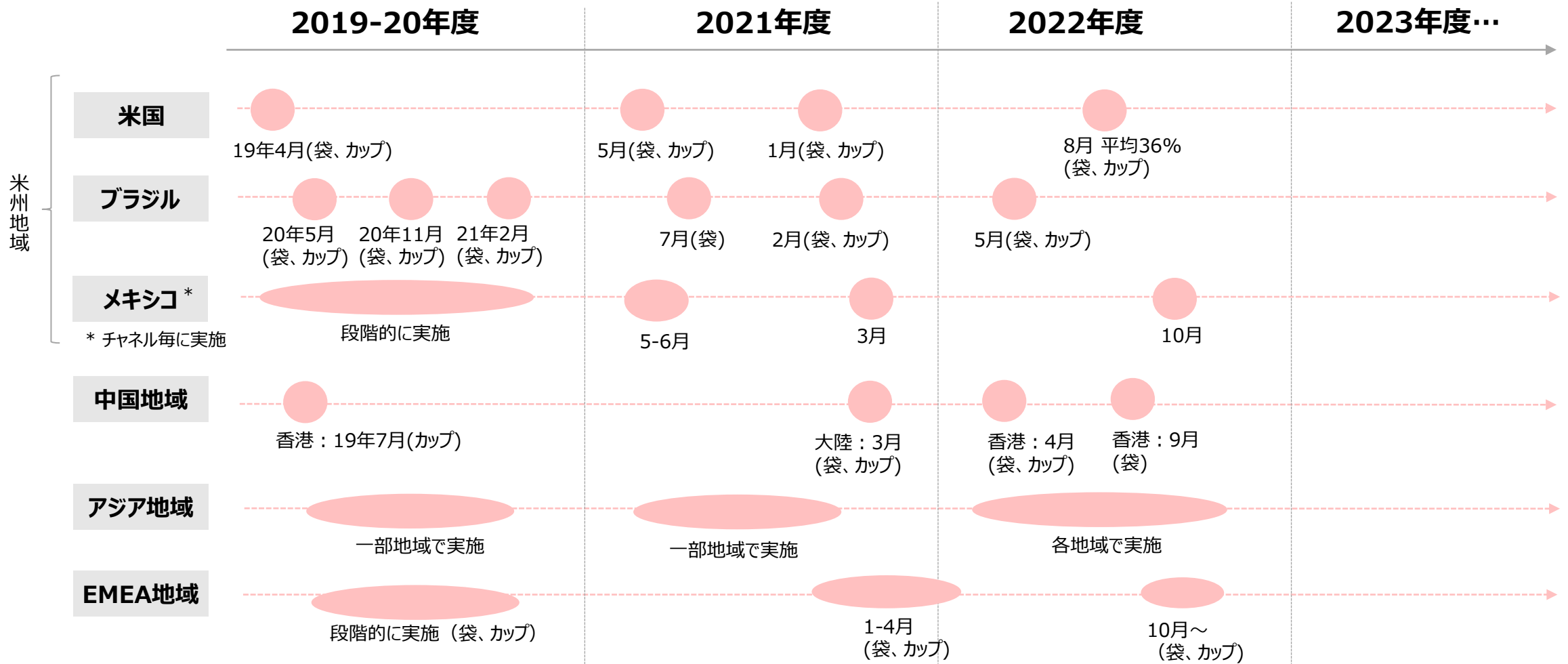


*()内は改定率

*2023年2月現在発表済みのもの

主な価格改定推移（海外）

各地域の状況に合わせて随時価格改定を実施

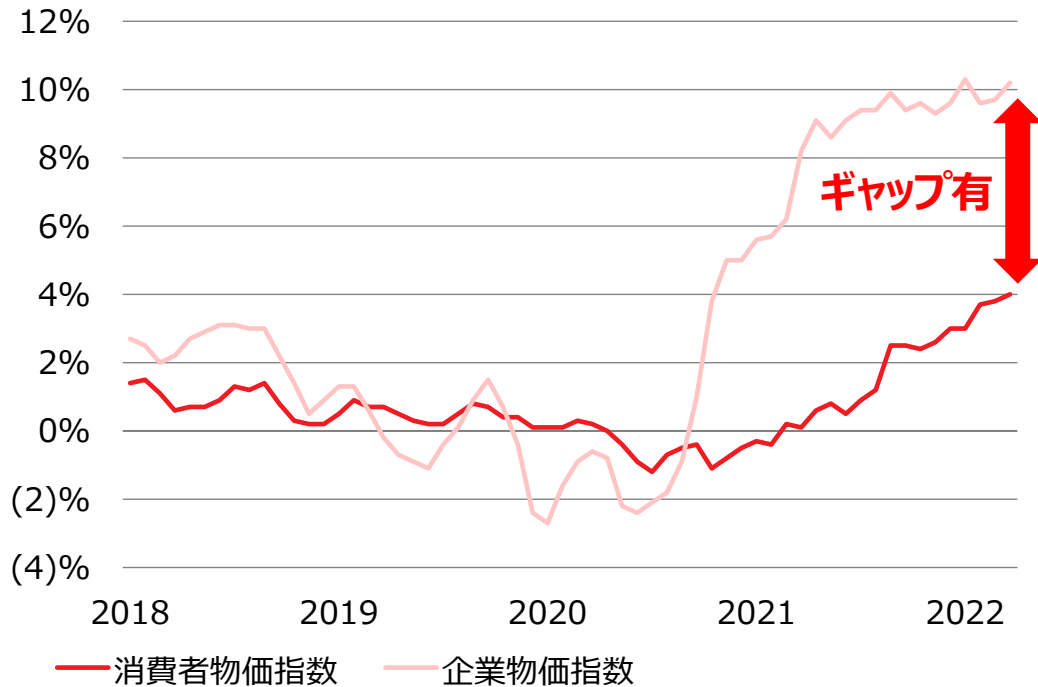


*2023年2月現在発表済みのもの

(参考) 消費者物価と企業物価の日米比較

日本における消費者物価指数と企業物価指数推移

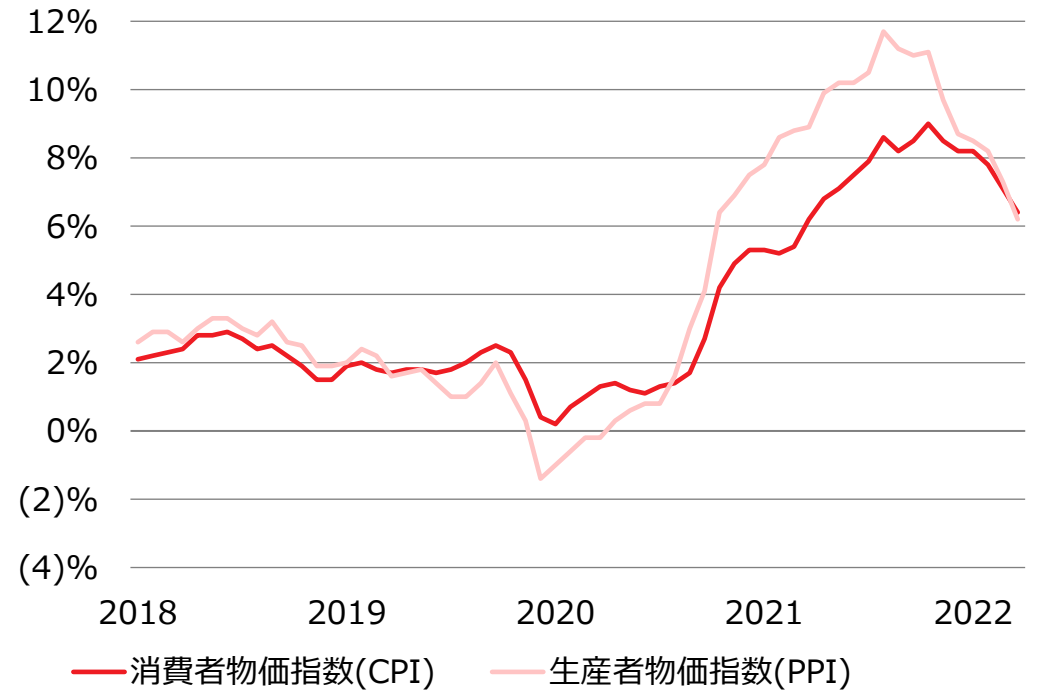
2018年1月～2022年12月



出所: 日本銀行 時系列統計データ、e-Stat

米国における消費者物価指数(CPI)と生産者物価指数(PPI)推移

2018年1月～2022年12月



出所: U.S. Bureau of Labour Statistics

本資料に掲載しております当社グループの計画及び業績の見通し、戦略などは、発表日時点において把握できる情報から得られた当社の経営判断に基づいています。あくまでも将来の予測であり、「市場における価格競争の激化」、「事業環境をとりまく経済動向の変動」、「為替の変動」、「資本市場における相場的大幅な変動」他、様々なりスク及び不確定要因により、実際の業績と異なる可能性がございますことを、予めご承知おきください。

また、本資料は投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的としたものではありません。銘柄の選択、投資の最終決定は、ご自身の判断でなさっていただきますようお願い申し上げます。

- このプレゼンテーション資料は、PDF形式で当社ウェブサイト「決算短信・補足資料・決算説明会関連資料」に掲載しています
<https://www.nissin.com/jp/ir/library/>
- この資料の金額は、千円単位で算出し、億円単位未満を四捨五入して表示しているため、内訳と合計金額等が一致しない場合があります
- 当該資料の決算期は原則として、20YY年4月1日～20YY年3月31日を「20YY年度」または「YY年度」とします
- 中国地域の実績は、日清食品ホールディングス連結の方針に基づくもので、香港日清の開示とは異なる可能性があります。また、中国地域の戦略、それに基づく各種目標ならびに業績予想は日清食品ホールディングスが独自に設定したものです



日清食品ホールディングス株式会社